



「草場佩川」

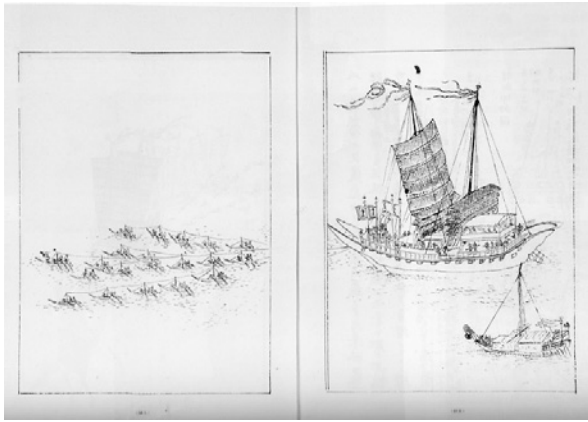
没後150年記念行事

草場佩川の会

その2

書画に優れ、多くの作品を残した佩川。22歳頃から年に数回長崎の江越繻浦に絵を習いに行き、本来の資質に磨きをかけました。市報1月号に掲載した、佩川作品の中でも代表的な「雪中竹画」の落款の一つは佩川自慢のものです。

文化8年（1811）、朝鮮通信使は家斉の將軍就任を祝うために江戸ではなく対馬に来ました。このとき佩川は師古賀精里の下で接韓使として、公文書の作成、通信使との応対などに従事しました。この落款は、佩川の才能を高く評価した通信使製述官の李顕相から、別れに際して贈られたものです。



草場佩川「津島日記」(※対馬厳原港をでる通信使の船団)

▼問い合わせ

草場佩川の会 桑原峰俊

☎75-16824

Information 市民生活課

低温やけどにご用心!!見た目より重症の場合も

《事例1》こたつで就寝し朝起きると、足の指から出血しており、やけどに気づいた。左足の親指と人差し指を切断し、中指は皮膚移植を行うほどの重症だった。
(70歳代 男性)

《事例2》腰にカイロを貼り、電気毛布のスイッチを付けたまま就寝した。翌朝カイロをはがすと「痛がゆさ」があったので、皮膚科を受診したところ、皮がむけており皮膚の深い部分までやけどをしていると言われた。
(70歳代 女性)



出典：独立行政法人国民生活センター

《ひとこと助言》

- カイロやこたつ、電気毛布など、暖かく感じる程度の温度でも、長時間皮膚が接することによって「低温やけど」が起きます。高齢者は若年者に比べて皮膚が薄く、運動機能や感覚機能が低下しているため、重症となりやすく、特に注意が必要です。
- 低温やけどを防ぐためには、長時間同じ部位を温めないこと。
- 低温やけどは痛みも少なく、一見軽そうに見えますが、重症の場合があります。早めに医療機関を受診しましょう。

▶問い合わせ 市民生活課 生活環境係 ☎75-6117 消費者ホットライン ☎188